



TITLE:

京大広報 No. 68

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 68. 京大広報 1972, 68: 253-256

ISSUE DATE:

1972-03-17

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209627>

RIGHT:

京大広報

No. 68

京都大学広報委員会

入学試験の実施にあたって とられた措置について

本学では、さる3月3日から5日までの3日間にわたり行なわれた入学試験の準備および実施のため、次の措置がとられた。

I 封鎖解除

本学では、さる1月16日以来国立大学授業料値上反対などを主張する学生の一部によって、教養部、文学部および農学部バリケードが築かれ、一部の建物が封鎖・占拠されてきた。封鎖・占拠は大学における教育研究その他の業務に重大な支障をもたらすものであり、さらに自由な討論や集会の場を制約するものであって、大学としてこれを容認できないことは、しばしば明らかにしてきたところである。また、入学試験の実施は、大学に課せられた大きな社会的責務であり、本学としては、学内において入学試験を実施する方針のもとに封鎖・占拠している学生に対して、自主的に解除するよう説得の努力をつづけてきた。総長は、数回にわたる部局長会議での討議の結果、最後まで自主解除の実現に期待をかけながらも、もし自主解除されない場合には、最小限の警察力の援助のもとに封鎖を解除することもやむを得ないとの判断に達し、そのために必要な手続きをとることとした。

1. 2月28日、総長は評議会において、本学の現状について説明し、「入学試験の実施にあたり警察の援助を得なければならない場合それを求めること」および「このことの承認が得られた場合、その時期などを総長に一任す

ること」の承認を得、あわせて、入学試験が完了するまでの間構内立入制限、夜間立入・残留制限などの措置を講ずることの了承を得た。

2. 2月29日、午後8時からの夜間立入・残留制限を励行することを掲示および放送により周知させた。

(掲示)

入学試験準備および実施のため、特に許可された者を除き、昭和47年2月29日から、午後8時以後の立入・残留禁止を励行します。

昭和47年2月29日

京都大学総長 前田 敏男

(放送)

こちらは京都大学です。

午後8時以後許可なく学内に残留することは禁じられておりますので、いまだに学内に残っている方は、ただちに退去してください。

3. 2月29日、午後9時過ぎ、封鎖・占拠している学生に対し、総長の退去命令を放送するとともに、封鎖・占拠されている場所の周辺にこれを掲示した。

(掲示)

本学建物を封鎖占拠している諸君は、ただちに封鎖占拠を解き、本学敷地外に退去しなさい。

昭和47年2月29日午後9時

京都大学総長 前田 敏男

(放送)

私は、京都大学総長です。

本学建物を封鎖占拠している諸君は、た

だちに封鎖占拠を解き、本学敷地外に退去しなさい。

4. 3月1日、午前7時過ぎ、封鎖・占拠されている部局において、マイクにより総長の退去命令が伝達された後、本学の教職員によりバリケードの撤去、封鎖の解除が行なわれ、同時に下記の構内立入制限等の掲示が門や掲示板に出された。解除は妨害なく終了した。この間機動隊は本学周辺で待機していた。

(掲示)

- (1) 3月1日から3月5日までの間は、入学試験準備および実施のため、本学教職員および総長が許可した者を除き、本学構内への立入りおよび残留を禁止する。

- (2) 本学教職員および(1)の許可を得た者であっても、午後8時から翌朝7時までの間に本学構内に立入りまたは、残留する場合は、総長の特別の許可を要する。

- (3) 本学入学試験受験者は、次のとおり、本学構内への立入りおよび残留ができます。

3月2日 午前9時から午後5時まで

3月3日から5日まで
午前8時から午後5時まで

昭和47年3月1日

京都大学総長 前田 敏男

(掲示)

3月1日から5日までの間入学試験準備および実施のため、とくに学内における次の行為を禁じます。

- (1) 集会を開くこと。
(2) マイクを用いて静穏を害すること。
(3) デモを行なうこと。

昭和47年3月1日

京都大学総長 前田 敏男

5. 3月2日、総長は入学試験の準備および実施のためとった今回の措置について下記の掲示を出した。

(掲示)

今回入学試験の準備および実施のため、3月1日より5日までの構内立入制限の処置をとらざるを得なくなりました。大学としては、最後まで本学建物の封鎖占拠の自主解除に期待をかけたが、この期に至っては、試験場を準備するため止むなく最小限度の警察の援助のもとに封鎖を解除し、ひきつづき立入制限をしたわけであります。

入学試験を支障なく行なうためにとられた今回の一連の処置に対し、本学教職員、院生、学生およびその他の本学関係者諸氏ならびに受験生諸君の協力をお願いします。

昭和47年3月2日

京都大学総長 前田 敏男

なお、3月3日から始まった入学試験は5日をもって終了したが、封鎖解除から入試終了まで機動隊は終始学外で待機し、学内立入りはなかった。

II 構内立入制限等

3月1日から5日までの間に本学においてとられた構内立入制限等の措置は、次のとおりである。

1. 構内立入制限

本学関係者の午後8時より翌朝7時までの立入・残留制限の励行および、学外者の立入禁止のほか臨時に次のような措置をとる。

- (1) 3月1日(ただし教養部は3月2日まで)

本学教職員(本学関係団体の専従職員を含む。以下同じ)。以外は立入禁止とする。

- (2) 3月2日(本部、医学部、薬学部)

本学教職員および受験生以外は、立入禁止とする。受験生には、午前9時より午後5時までの間立入りを許可する。

- (3) 3月3日より3月5日まで

本学教職員および受験生以外は、立入禁止とする。受験生の残留時間は午後5時までとする(その間原則として出入りは認めない)。受験生の父兄など付添者は立入禁止とする。

- (4) 3月1日から3月5日までの期間(臨時

立入禁止期間) 本学の学生および大学院生で研究, 実験のため立入・残留の必要のある者に対しては, 学部長, 教養部長または研究所長が特別許可証を発行する。

2. 車輛制限

臨時立入禁止期間中, 本学構内(病院, 西部構内を除く。)に出入りする車輛は, 官用車, 本学教職員の車および本学にやむを得ない用務のある車に制限する。

3. 門の開閉

臨時立入禁止期間中, 門の開閉を次のとおり変更する。

(1) 本部構内

ア. 3月1日および2日

正門, 裏門	大門は閉鎖し, 通行は小門とする。
東門, 西門	終日完全閉鎖する。
北門	閉鎖し, 車輛通行の都度開閉する。

イ. 3月3日より5日まで

正門	大門は午前8時より同9時までの間および試験終了時より約30分間開き, その他は閉鎖する。この間以外の通行は小門とする。
裏門	午前8時に大門を開き, 同9時に閉鎖する。この間以外の通行は小門とする。
北門	閉鎖し, 車輛通行の都度開閉する。
東門, 西門	終日完全閉鎖する。

(2) 教養部構内

ア. 3月1日および2日

正門	大門は閉鎖し, 通行は小門とする。
西門	閉鎖し, 車輛通行の都度開閉する。
東南門	終日完全閉鎖する。

イ. 3月3日より5日まで

正門	大門は午前8時より
----	-----------

同9時までの間および試験終了時より約30分間開き, その他は閉鎖する。この間以外の通行は小門とする。

西門

閉鎖し, 車輛通行の都度開閉する。

東南門

閉鎖し, 文学部, 理学部の受験生の退出のため3月4日午後2時15分より, および3月5日午前10時15分よりそれぞれ約30分間臨時開門する。

月 曜 会 メ モ

第99回 (2.7)

司会 岡田寿太郎会員

部局報告として, 各学部の会員より, その学部において1月中旬頃よりおこっている事態の経過, 現状について詳細な報告がなされた。その報告によれば, 各学部における固有の問題に関連している点もあるが, 各学部において共通している点の方が多く, 各学部の問題というよりも, むしろ全学的問題としての性格が強いように感じられた。また従来おこった同様の事態とはかなり異なった経過をとっているようであることが指摘された。ついでこれらの報告に関連して種々質疑応答がなされ, また多くの意見が述べられた。今回は上記の部局報告関連事項に終始し, 予定されていたテーマ(大検委の報告もしくは大学院大学構想の問題点)についての討議は行なわれなかった。月曜会のあり方についてはかつて討議されたことがあったが, それからかなりの期間が経過しており, また年度末も近づいていることでもあり, この問題を再検討する時期が来ているのではないかと意見が出され, 次回(3月6日(月))にこの問題に関して, 従来の司会および討議のあり方についての反省をも含めて討議することとなり散会した。

(岡田寿太郎会員, 田中久会員)

第100回 (3.6) 司会 松田良一会員

部局報告：教養部，薬学部，経済学部，文学部，工学部および農学部から各学部のストライキなどの現況について報告があった。

議題：月曜会のあり方について

既にこの問題について昨年4月に検討され，そのメモが京大広報 No. 55 に掲載されている。本年度は毎月1回開いてきており，現況報告などがある。この会合は semi-formal なものであるが，それなりに意義があるからということで本日まで続けてきた。第99回の月曜会において従来欠席の会員が多いが，その理由を考えてみて，第100回では本年度のしめくくりの意味で再検討することになっており，これが本日の会合の議題である旨司会会員から発言があった。これに対して，本日は本会の存廃の問題を含めて検討することになった。種々の意見が出されたがその大要はつぎの通りであった。

廃止すべきであるという意見：研究所，病院の立場から：本会の議題中には無関係なものが多く，そのために興味が全く持てない話が多い。情報交換だけの場ならば他の方法を考えてはどうか。Formal ではないという点にも問題があり，この会はこの辺で終止符を打つべきである。

学部の立場から：単に情報の交換の場としてのみに意義を認めるのでは本会の本来の意味を失っている。大学改革のための情報交換が当初のテーマであったが，それが失なわれているとすれば廃止してもよいと思われる。また部局によってはど

ちらかと言えば廃止した方がよいという程度の意見があった。

存続すべきであるという意見：学部および研究所の立場から：本会合においては情報交換によって種々有益な勉強をしてきている。毎月1回程度であれば時間もとらないと思われる。興味の有無によって出席を左右されるべきものではなく，大学の将来の方針を決めるに当たって各部局の立場にこだわることなく遠慮のない，free talking の形で物が言えるのはこの会以外には本学には存在しない。この会合は大学の硬化を防ぐに役立つものであってこの点からみても本会は存続すべきものとする。何か新しい組織ができて引き継がれるようになったときに発展解消すべきである。

今後の問題として：もし存続するとすれば，メリットを増加するような方策を考えるべきである。たとえば，総長に必ず出席していただけるような日程で行なうこと。予めテーマを決めて案内をすること。また会合の時間からみて，食事を共にしながら話し合うようにすること（費用各自負担）なども考えられる。存続，廃止の問題は本日決定するのは早急すぎるので，現在の会員で次回に再び討議することになり，次回は特に3月25日までの総長の都合のよい日に，曜日にはこだわらずに開催する。また夕食は各自適当なものを注文して食事を共にしながら討議することとし，司会者は工学部担当とすることに決定して終了した。

（松田良一会員，千葉英雄会員）